

講義名	環境経済論		
担当教員	内山 勝久		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
備考			

**主題と概要**

この授業は、経済学の枠組みに基づいた環境問題の捉え方を習得することを目的とします。環境問題は地域的な問題から地球規模の問題までさまざまですが、我々の経済活動に起因している点で共通しています。環境問題は学際的な問題であり、さまざまな分野の専門的知見が必要ですが、この授業では経済学の考え方を活用し、環境問題解決のためにどのような対処方法があるのかを検討します。さらに習得した事項を現実の問題に適用できるような応用力も養成したいと考えています。ミクロ経済学の応用科目なので、論理的な思考能力向上上のトレーニングに適しています。

**到達目標**

自受講生が、(1)環境問題と経済活動の関係について理解し、ミクロ経済学に基づく環境経済学の基礎的な概念・枠組みを習得して、他者に説明できるようになること、(2)環境問題発生メカニズムや環境税・排出量取引などの環境政策の経済的効果を、環境経済学の体系に基づいて理解し、その知見を応用してローカルな環境問題・グローバルな環境問題の改善案を提示できるようになること、(3)現代社会の重要課題である持続可能な社会の構築に向けて、個人や企業が果たすべき役割を理解し、望ましい環境配慮行動のありかたを提案できるようになることを目指します。

**提出課題**

中間課題として、期中にレポートを提出してもらいます。また、期末には期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業内で説明します。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

**評価の基準**

中間レポート課題40%、期末レポート課題60%の比率で評価します。授業内容に関する的確な質問や優れたレポートに対しては、満点を越えて加点評価します。

**履修にあたっての注意・助言他**

この科目はミクロ経済学の応用科目です。履修にあたってはミクロ経済学を履修済みであることが望ましいです。授業では、数学の図やグラフが登場しますが、授業では丁寧に説明しますが、苦手意識のある受講生は数学(図やグラフの描き方、読み方)に関する復習が必要かもしれません。毎回の授業は、それまでの授業内容の理解を前提とした「積み上げ型」になります。授業は丁寧に進めていきますが、途中で流れを見失わないように、不明の点は積極的に質問するなどの姿勢と努力が求められます。関連する科目に「公共経済論」があります。並行して履修すると理解がより深まります。授業中の私語は禁止です。他の意欲的な学生にとって大きな迷惑行為となりますので、厳に慎んでください(集中力を維持してください)。質問等で発言が必要な場合は挙手の上行ってください。授業の復習にあたっては、授業内容をまとめる専用のノートを作成することをお勧めします。労をいとわず自分の手で書くことによって、自分が理解できていること、理解できていないことが明確になってきます。

教科書	.特定の教科書は使用しません。			

**プリント資料及び参考文献**

担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料はRYUKA Portal経由で毎回配布します。授業では主に以下の文献をベースにする予定です。授業の予習・復習に有益ですので、入手することを推奨します。  
・東川浩一、松倉外也(著)、『環境経済学をつかむ』(第4版)、有斐閣、2020年。  
その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

**授業計画**

第1回 イントロダクション： 授業の進め方、および環境問題と経済活動の関係について  
第2回 私たちの生活と環境： 持続可能な発展について  
第3回 環境問題発生メカニズム(1)： 外部性と市場の失敗  
第4回 環境問題発生メカニズム(2)： 共有資源の利用と管理  
第5回 環境問題発生メカニズム(3)： 公共財とフリーライダー  
第6回 環境政策の基礎理論(1)： 直接規制と市場メカニズム  
第7回 環境政策の基礎理論(2)： 環境税と補助金  
第8回 環境政策の基礎理論(3)： 直接交渉による解決  
第9回 環境政策の基礎理論(4)： 排出量取引  
第10回 環境政策への応用(1)： 廃棄物政策  
第11回 環境政策への応用(2)： 地球温暖化政策  
第12回 企業と環境問題(1)： 企業の環境対策  
第13回 企業と環境問題(2)： 企業に求められる社会的責任  
第14回 企業と環境問題(3)： 企業と環境リスク  
第15回 まとめ： 授業の補足と全体のまとめ

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実験、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

授業前に、事前に配布された授業資料に目を通し、授業内容に関する自分なりのイメージを持っておいください(その上で授業に臨むこと)。前述の参考文献の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくと、授業の理解度が高まります：約1.5時間/回。  
授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習してください(復習してわからなかった点は質問してください)。前述の参考文献やミクロ経済学の教科書を併せて読むことで理解度がさらに高まります：約2.5時間/回。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

この科目の「到達目標」を達成することで、人間、社会、自然に関する学際的問題である環境問題や、サステナビリティなどの現代社会の重要問題を、経済学の枠組みを通じて理解できるようになり、さらに、環境問題と経済活動の関係を含めて、サステナビリティに関する世の中の動向に関心を深め、持続可能な社会の構築に向けた分析ができるようになります。これは、経済学専攻経済学の卒業生が卒業時に獲得しておくべき資質・能力である。人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の蓄積を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察して課題を提案したり、世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決案を提案したりすることができる能力が備わることにつながります。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、シラバスが修正される場合があります(授業方法、評価方法など)。最新の情報はRYUKA Portalで確認してください。